

◇編集後記◇

前任の川上先生から編集委員長を引き継ぎました
 笠島（そうけじま）です。三重大で公衆衛生・産業
 医学分野の教育・研究を担当しております。歴代の編集
 委員長の名を汚さずにこの大任を勤め上げることができ
 るのか、不安を覚えながらのスタートですが、本誌なら
 びにJOHの学術的価値と社会への貢献を高めるよう努
 力する所存です。ご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお
 願い申し上げます。

引き継ぎを直前に控えた3月11日に東日本大震災が
 発生し、今日に至っております。震災において多くの
 方々が犠牲となられ、被災されました。心からのお悔や
 みとお見舞いを申し上げます。

巨大地震・大津波、それに伴って発生した福島県の福
 島第一原子力発電所の事故による放射性物質の環境への
 放出があり、それらの健康影響が憂慮されます。この複
 合的な激甚災害における健康問題と産業衛生上の対応の
 あり方について、依然として時々刻々と変化しつつある
 災害の全体像を把握しながら、本誌の立場からも課題を
 明らかにし検討する必要があることは言うまでもありま
 せん。

この震災から3週間あまり経過した4月4日に、新旧
 の編集委員長・副編集委員長が引き継ぎのため本郷東大
 に集いましたが、まさにその日に、被災地の仙台市に立

地する病院から、職域としての病院の対応状況に関する
 論文の投稿がありました¹⁾。休憩場所の指定もなく、ほ
 とんど不眠不休で24時間働いた病院職員の存在や、職
 員の食糧の確保もできない状態で救急患者を受け入れて
 いたことの問題点が指摘されています。貴重な記録とし
 て残すため、査読を経て本誌に掲載させて頂きました。

編集委員会として、7月号から長期にわたり、本誌お
 よびJOHにおいて「特集：災害時の産業衛生」を組む
 よう企画しております。震災が産業衛生に及ぼす影響を
 幅広く記録し、その意味を探り、復興に向けた行動指針
 の一助になるようにと考えております。この5月号に案
 内を掲載してありますので、何卒、ご協力頂きますよう
 お願い申し上げます。

末尾になり恐縮ですが、去る4月20日に編集委員で
 鹿児島大学教授の竹内 亨先生がご逝去されました。お
 亡くなりになる直前まで編集にあたって頂きました。謹
 んでご冥福をお祈り申し上げます。合掌。

1) 清治邦章. 震災直後の報告：仙台市内の救急外来を行った
 中規模病院から. 産衛誌 2011; 53: 101-4.

(笠島 茂)

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：笠島 茂（三重大）

副委員長：櫻田尚樹（国立保健医療科学院）、杉森裕樹（大東文化大）、高尾総司（岡山大）、
 玉腰暁子（愛知医大）、那須民江（名古屋大）、西田和子（久留米大）、平工雄介（三重大）、
 藤野善久（産業医大）、毛利一平（労働科学研究所）、八谷 寛（名古屋大）

石竹達也（久留米大）、井上和男（帝京大）、岩崎健二（労働安全衛生総合研究所）、植嶋一宗（三重大）、梅津美
 香（岐阜県立看護大）、小笹晃太郎（放射線影響研究所）、萱場一則（埼玉県立大）、川口陽子（東京医歯大）、熊
 谷信二（産業医大）、黒沢洋一（鳥取大）、近藤尚己（山梨大）、酒井一博（労働科学研究所）、佐々木美奈子（東
 京医療保健大）、菅沼成文（高知大）、田中昭代（九州大）、土井由利子（国立保健医療科学院）、中尾睦宏（帝京
 大）、中村裕之（金沢大）、馬場園明（九州大）、原田浩二（京都大）、東 尚弘（東京大）、福島哲仁（福島医大）、
 堀口兵剛（秋田大）、丸山総一郎（神戸親和女子大）、三木明子（筑波大）、三宅達郎（大阪歯大）、村田勝敬（秋
 田大）、八幡勝也（産業医大）、大和 浩（産業医大）、吉田貴彦（旭川医大）、渡邊博且（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495 番